

平成21年5月22日現在

研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2007～2008
 課題番号：19700499
 研究課題名（和文） イギリスのホッケー普及過程における統括組織非加盟クラブの活動に関する研究
 研究課題名（英文） A study of unaffiliated clubs' activities during the spread period of the organized game of hockey in England
 研究代表者
 秋元 忍（AKIMOTO SHINOBU）
 神戸大学・大学院人間発達環境学研究科・准教授
 研究者番号：50346847

研究成果の概要：19世紀末に組織化を達成したホッケーは、統括組織の普及戦略のもと20世紀初頭にかけて緩やかに普及した。ただしこの普及期に活動していたのは統括組織加盟クラブだけではなかった。独自の活動を続けた非加盟クラブもあった。また加盟クラブから非加盟クラブへ、またはその逆への移行も見られた。クラブレベルの多様な実践が存在したのである。ホッケーの普及過程は、統括組織の普及戦略が貫徹された過程というよりも、非加盟クラブの独自の活動も含む重層的な過程であったと評価すべきである。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,100,000	0	1,100,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,600,000	150,000	1,750,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学 スポーツ史

キーワード：ホッケー 近代スポーツ

1. 研究開始当初の背景

近年のイギリススポーツ史研究の成果を総括したTranterは、19世紀後期イギリスで組織化され、ルールの一統化が達成されたスポーツ、いわゆる近代スポーツの普及に関する説明ははまだ十分ではないと指摘していた(Tranter, 1998)。その背景には、かつてスポーツ普及のモデルと見なされた社会階層の上層から下層への下方伝播という説明とは合致しない、多様な経緯が示されつつあるという研究状況があった。ゴルフ、ローンテニス、ヨットといった上流階級と中流階級に人気があったスポーツは労働者階級によ

って広く行われることがなかったこと、労働者が主体的にスポーツの組織化を推進した例が存在すること、などの事実が解明され、従来の説明の再検討が要請されたのである。以上の研究動向を踏まえ、筆者は、これまで研究対象とされることが少なかったスポーツの1つであるホッケーに着目し、そのイギリスにおける普及過程に関する研究を、主に統括組織の普及戦略との関連から行ってきた。結果、ホッケーの統括組織関係者たちは20世紀初頭に至っても大衆化を志向していなかったこと、地域限定的で緩やかなホッケーの普及の規模と速度は、統括組織の普及戦

略を反映したものであったと評価できること、などを明らかにすることができた(秋元、2006)。しかしながら、こうした成果を得た一方で、当初の研究対象には含まれていなかった、新たな歴史的事実が見出された。それは、いかなる統括組織にも加盟していないホッケークラブが多数存在していたことであった。これらのクラブの中には、統括組織が認めていなかったリーグ戦制度を、近隣のクラブと協同して運営するなど、主体的な活動を展開していた事例も確認することができる。しかしながら、ホッケーに限らず、従来の近代スポーツの普及に関する研究は、こうした統括組織の管轄の外部にあったクラブの活動を看過してきたように思われる。分析の視点を統括組織のレベルに留めることなく、統括組織に加盟していなかった個々のクラブの活動の実態のレベルにまで拡げていけば、近代スポーツの普及過程の新たな一面が見えてくる可能性がある。以上の着想に基づき、本研究では、統括組織非加盟のホッケークラブを主対象とした歴史研究を行なうことにした。

2. 研究の目的

本研究は、イギリスのホッケー普及過程における統括組織非加盟クラブの活動について検討することを目的とする。この目的を達成するために、次の2点の研究課題を設定し、単年度の課題とした。(1) 2007年度：統括組織非加盟ホッケークラブの活動の重要な事例として、統括組織が禁止していたリーグ戦を実施するために設立されたレディース・ホッケー・リーグ(Ladies' Hockey League)に着目し、このリーグ戦制度の実態を解明する。(2) 2008年度：個別クラブの活動のより具体的な事例として、1898年から1911年まで存続し、統括組織非加盟期、加盟期の両時期を経験したイングランド北部のクラブ、「ケンダル・レディース・ホッケークラブ」に焦点を当て、このクラブの活動の検討からホッケー普及過程の特徴を考察する。

3. 研究の方法

(1) 研究対象の設定：統括組織非加盟クラブの定義

本研究の対象年代におけるクラブゲームとしてのホッケーの構造は、下記の図の通りであった。

ホッケーアソシエーション(男性のゲームの統括組織。以下 HA)、オールイングランド・ウィミンズ・ホッケーアソシエーション(女性のゲームの統括組織。以下 AEWHA)という男女別の統括組織が並存し、それぞれ加盟クラブのゲームを管轄していた。ただし、この両組織に加盟せず、活動を継続していたクラ



ブも存在した。統括組織が承認していなかったリーグ戦や、男女混合ゲームをプレイするクラブ、自らの意思で統括組織には加盟しないクラブなどが該当したが、その活動の実態はいまだ明らかではない。本研究が対象とするのは、これらの統括組織非加盟クラブの活動である。

(2) 史料について

本研究は歴史学の方法に基づき遂行されるものであり、一次史料の収集と分析による過去の再構成が、主たる方法となる。そのため 2007 年度に史料調査のためのイギリス研修旅行を実施し、統括組織非加盟クラブの内部史料、ホッケー関連雑誌、地方新聞等の調査を行った。本調査によって得られた主要史料は以下の通りである。

①カンブリア・レコード・オフィス、ケンダル所蔵「ケンダル・レディース・ホッケークラブ 1898-1910」、史料番号 WDSO 10

議事録 WDSO 10/1 1899-1911
幹事記録簿 WDSO 10/2 1899-1903、
WDSO 10/3 1903-1910/11
規約、定期戦リストほか WDSO
10/4 1902/3-1910/11

②マンチェスター周辺の地方新聞記事

The Leigh Journal
The Leigh Chronicle
The Ashton-under-Lyne Reporter
Mossley and Saddleworth Reporter

③ケンダル周辺の地方新聞記事

The Westmorland Gazette

④ホッケー関連雑誌

Hockey and Winter Sports
The Hockey Field.

⑤ホッケー関連年鑑、ホッケー書、ルールブック ほか

(3) 研究の手続き

2007 年度研究課題：レディース・ホッケー・リーグについて、上記の史料に依拠して次の3点を検討する。①「リーグ」への批判的視座の形成。②レディース・ホッケー・リーグ設立と活動の状況。③レディース・ホッケー・リーグ設立の影響。

2008 年度研究課題：ケンダル・レディース・ホッケークラブの活動を、①ケンダル周辺におけるホッケーのゲーム実施状況、②統

括組織非加盟期のケンダル・レディーズ・ホッケークラブの活動 1898/99-1901/02 年、
 ③総括組織加盟期のケンダル・レディーズ・ホッケークラブの活動 1902/03-1910/11 年、
 の3点から内部史料によって検討し、こうしたクラブの活動を含んでいたホッケーの普及過程についての評価を試みる。

4. 研究成果

(1) 1914年以前のイングランドにおける統括組織非加盟ホッケークラブの活動について—レディーズ・ホッケー・リーグ Ladies' Hockey Leagueの検討から—

2007年度は、統括組織非加盟ホッケークラブの活動の重要な事例として、統括組織が禁止していたリーグ戦を実施するためにイングランド北部に設立されたレディーズ・ホッケー・リーグに着目し、①リーグへの批判的視座の形成、②設立の経緯と活動の状況、③設立の影響の3点から検討することを課題とした。結果、以下の点が明らかになった。

①アマチュアのゲームに対する脅威という観点から、「リーグ」という制度への批判的視座は形成された。フットボールの普及とともに経験されたプロ化の弊害は、ホッケープレーヤーにも認識されていた。HA、AEWHAともに、ホッケーはアマチュアのゲームとして維持されるべきであるという見解で一致していた。危惧されていたのは、リーグ制度がカップ戦と同様にプロ化の源泉となることであった。

②批判を受けつつも、レディーズ・ホッケー・リーグは、マンチェスター周辺における多種目のリーグの興隆、活発な女性ホッケークラブの活動を背景として、遅くとも1910年10月には対戦を開始した。マンチェスター周辺には、プロ、アマを問わずフットボールの様々なリーグが存在し、さらにはクリケット、ラクロス、カーリング、リンク・ホッケー（アイスホッケー）、ビリヤードでもリーグ制によるゲームが行われていた。よってクラブゲームの形態としてリーグは特別なものではなかった。また、女性によるクラブゲームとしてのホッケーも活発に行われていた。*The Leigh Chronicle* (April 22, 1910, p. 7.) に掲載されたレイ・レディーズ・ホッケークラブの対戦リストによれば、このクラブは、1909/10年（リーグ設立の前シーズン）に、15戦14勝1分の成績を残している。女性のホッケーリーグの設立の基盤は十分に存在していた。

レディーズ・ホッケー・リーグは、AEWHAのメンバーとは異なる階層の人々からなるクラブの要求に対応することを、その設立の目的としていた。F. A. ブラウン（レディーズ・ホッケー・リーグ名誉幹事、男性）は、土曜日の午後にはしか活動することができな

い女性のクラブが数多く存在すること、よって平日の練習も可能なAEWHA加盟クラブとの対戦は不釣り合いなものとなること、とこれらのクラブの現状を指摘し、こうした諸問題を解決するために新たな「アマチュア」のリーグが設立されたと述べている（*The Hockey Field*, April 6, 1911, p. 388.）。AEWHAの副会長であったE. トンプソンは『レディーズ・ホッケー・リーグ』を形成するクラブのメンバーのほとんどが、土曜の午後だけにホッケーをプレイすることができる、働く少女達である。・・・このリーグのメンバー達は、パブリックスクールの伝統の下で教育を受けておらず、その教育を受けた人と気持ちが通じることを期待するのは、どうみても妥当ではない（*The Hockey Field*, April 6, 1911, p. 387.）と、リーグとAEWHA加盟クラブのメンバーの社会階層の相違を強調していた。リーグ設立時に「アマチュア」であることが強調されたように、意図されたのは、危惧されていたプロ化ではなく、こうした社会階層の人々からなる統括組織非加盟クラブ間の対戦の充実であった。

レディーズ・ホッケー・リーグの運営には、女性のみによって運営されていたAEWHAとは異なり、男性が関与していた。またシーズン終了時にはレディーズ・ホッケー・リーグ祭（Gala）が開催されるなど、クラブ間の社交の促進も意図されていた。リーグのクラブの活動規模は、全国的統括組織（HA、AEWHA）の州支部加盟クラブを上回るほどに拡がりを見せた。1913/14年のシーズンには4部制となり、24クラブ35チームが参加していた（下記表参照）。

ランカシャー州HA、AEWHA州支部加盟クラブ数

シーズン	1910/11	1911/12	1912/13	1913/14
HA	30	31	30	30
AEWHA	-	22	20	-

HA: *The Official Handbook of the Hockey Association, 1910-11 ~ 1913-1914*
 AEWHA: *Game's Hockey Annual and Club Guide for 1911-12, 1912-13.*

レディーズ・ホッケー・リーグ 参加クラブ・チーム数

シーズン	1910/11	1911/12	1912/13	1913/14
部の数	2部制	3部制	3部制	4部制
クラブ数	14	22	22	24
チーム数	20	31	30	35

The Hockey Field, Feb. 16, 1911, p. 286, Mar. 28, 1912, p. 382,
 Jan. 9, 1913, p. 206, April 9, 1914, p. 398.

③レディーズ・ホッケー・リーグの設立は、1)リーグ参加クラブには充実した対戦を、2)外部には新リーグの構想の喚起を、3)全国的統括組織には、アマチュアのゲームを維持するという自らのゲーム普及戦略を再認識する契機を、それぞれもたらした。リーグに参加している各クラブの代表たちが「リーグの試合では、プレーヤーは見事に時間通りやっ

てくる」 「クラブがリーグ加盟後、チームはより熱心になり、昨年も、そして今シーズンのここまでも、1試合も中止になっていない」 (*The Hockey Field*, Feb. 15, 1912, pp. 285-286) と満足感を表明していた一方、HA、AEWHA は新たな対応を迫られた。AEWHA は、HA と同調しつつ、「ゲームの最良の興味はいかなる懸賞試合の制度をも持たないことにより促進される」 (*The Hockey Field*, December 22, 1910, p. 150) としてリーグ加盟クラブを排除した。HA もまた「懸賞戦、カップ戦、リーグはすべて禁止される」ことを明記した「リバプール宣言」を作成し、加盟する全クラブに送信した (*The Official Handbook of the Hockey Association, 1911-12*, 1911, London, Horace Cox, p. 4.)。ただし、1912年1月には、シェフィールドでは女性のリーグ構想が (*The Hockey Field*, Jan. 18, 1912, p. 211)、同年2月にはマンチェスターで男性のリーグ構想が (*The Hockey Field*, Feb 8, 1912, p. 260. および *Pall Mall Gazette*, Feb 16, 1912, p. 14.) 報じられたように、成功裏に展開をみたレディース・ホッケー・リーグは、リーグへの関心を広く喚起し、統括組織の活動をも変容させた。1913年9月、ダービーシャー・カウンティ・ホッケーアソシエーションの名誉幹事 W. J. ブレックは新たなトーナメント戦を設立した。これには 10 チームが参加し、成功裏に行われたが、このトーナメント戦は、リーグへの関心の高まりを克服する代案であった。 (*Pall Mall Gazette*, October 23, 1913, p. 17.)

以上より、全国的統括組織には加盟していなかったリーグのクラブの活動は、周辺地域へのホッケーの普及に重大な影響を与えたと評価することができよう。統括組織加盟クラブの活動の検討のみからでは捉える事が出来ない、普及の多様な経緯の存在が示された。

(2) ケンダル・レディース・ホッケークラブの活動について 1898-1911 年—統括組織非加盟期と加盟期の活動の変容を中心に—

2008 年度は、1898 年から 1911 年まで存続し、統括組織非加盟期、加盟期の両時期を経験したイングランド北部のクラブ、ケンダル・レディース・ホッケークラブに焦点を当て、このクラブの活動の検討からホッケー普及過程の特徴を考察した。検討のために用いた主要史料は、研修旅行時に入手した同クラブの内部記録 (議事録、幹事メモ、会計帳簿ほか、カンブリア・レコード・オフィス所蔵) である。①ケンダル周辺におけるホッケーのゲーム実施状況、②統括組織非加盟期のケンダル・レディース・ホッケークラブの活動 1898/99-1901/02 年、③総括組織加盟期のケ

ンダル・レディース・ホッケークラブの活動 1902/03-1910/11 年、の 3 点から検討した結果、以下の点が明らかになった。

①1914/15 年までの HA、AEWHA 加盟クラブ数は全国的に増加し続けたわけではなかった。イングランド北部は減少傾向がみられた地域のひとつであった。ケンダルが位置するウエストモアランド州においても、男女ともに、統括組織加盟クラブ数の拮据りは限定的であった。男性の州支部加盟クラブ数は 1906/07 年で 7、1911/年で 6 のみであった (*The Official Handbook of the Hockey Association*, London, Horace Cox, 1906-07 版, 1911-12 版より)。また 1905 年 2 月、初めて AEWHA のウエストモアランド州支部代表プレーヤーが選出されたが、州代表プレーヤーの出身クラブはわずか 3 クラブであり、1909 年 12 月の場合は 2 クラブに留まっていた (*The Westmorland Gazette*, Feb. 11, 1905, p. 8, *The Hockey Field*, Dec. 2, 1909, p. 116.)。ただし、男女混合ホッケーや学校内のゲームが地方新聞に継続的にレポートされていたことを考慮すれば、統括組織の管轄外のゲームも併存しつつ、ケンダル周辺にホッケーは普及を見たといえる。

②1898/99 年のシーズンの規約前書きによれば、ケンダル・レディース・ホッケークラブの設立は 1898 年 11 月であった。以後 4 シーズン、このクラブは統括組織非加盟クラブとして活動を継続する。ただし、1900 年 8 月 15 日に開催された総会において、AEWHA のルールを採用が決議されている (WDS0 10/1.)。1901/02 年のシーズン終了までは、統括組織のルールのみ採用していたものの、その管轄下には含まれず、クラブ独自の活動が展開された時期であった。

この時期のクラブのメンバー数、ゲーム実施状況は下記の表の通りであった。

シーズン	1898/99	1899/00	1900/01	1901/02
正規メンバー		29	32	37
X'mas Holiday member		8		
Easter Holiday member		7		
Holiday member			3	2
ゲーム数合計		17	19	23
うち 1st XI のゲーム				19
2nd XI のゲーム				4
女性のゲーム		5	19	23
男女混合のゲーム		8		
リーグ戦のゲーム		4		

(WDS0 10/1-10/4より作成)

1898/99 年のシーズンは記録が欠落しているため不明であるが、1899/1900 年以降、メンバー、ゲーム数、対戦クラブ数は増加傾向にあった。また、1899/1900 年には、リーグ戦、男女混合ホッケーが正規の活動として実

施されていた。これらはいずれも AEVHA が認めていなかった対戦様式である。内部史料には、1899/00 年以降の男女混合ホッケーのゲームの記録、男女混合ホッケー委員会開催記録はみられない。よって正式な活動としては排除されたと考えられるが、地方新聞 *The Westmorland Gazette* によればこのクラブが継続的に男女混合ホッケーのゲームをプレイしていたことがわかる。おそらく、同時期に存在したケンダル・ホッケークラブ（男性のクラブ）と共同しつつ、以後の統括加盟期にも、非公式な活動として男女混合ホッケーを継続していたと推測される。

③詳細な理由を議事録に見出すことはできなかったが、1902 年 9 月 15 日の総会において、このクラブは AEVHA への加盟を満場一致で可決した (WDSO 10/1)。同シーズン末には統括組織への年会費支出も記録されている (WDSO 10/3)。1902/03 年以降、確かにこのクラブは、ウエストモアランド州では数少ない AEVHA 加盟クラブとなった。

1904 年 12 月、この地域では最初の試みとして、女性の州代表チームのメンバーが AEVHA 加盟クラブの中から選出された。そのリストにはケンダルのメンバーが 4 名含まれていた (*The Hockey Field*, Dec. 22, 1904, p. 141.)。統括組織への加盟がクラブのメンバーにもたらしたものの 1 つは、州代表から北部代表へ、そしてイングランド代表へと開かれた道であった。

ただし、理論上こうした荣誉に浴する機会が整備されたにもかかわらず、クラブの活動は次第に低調になっていく。この時期のクラブのメンバー数、ゲーム実施状況は、下記の表の通り変遷していた。

シーズン	1902/03	1903/04	1904/05	1905/06	1906/07	1907/08	1908/09	1909/10	1910/11
正規メンバー	39	33	37	37	35	33	31	24	18
High School members	18	20							
ゲーム数合計	29	26	31	24	13	15	15	14	12
うち 1st XI	18		23	19					
うち 2nd XI	11		8	5					

(WDSO 10/2-10/4より作成)

メンバー数の減少に歩みを合わせるように、実施ゲーム数も 1904/05 年のシーズンをピークに減少していった。また対戦チームも、統括組織加盟時には 16 にまで増加したが、1906/07 年には 10、1907/08 年には 11、1908/09 年には 10、1909/10 年には 10、1910/11 年には 10 となっており、大きな変化は見られない (WDSO 10/2、WDSO 10/3 より)。よって、統括組織への加盟が活動の活発化を

もたらしたわけではないことがわかる。

このクラブの活動は、1910/11 年まで確かに継続された。しかし、同じ場所で活動を行っていた男性のホッケークラブは、おそらく戦争の影響により、活動を継続することが困難になっていた ('The Kendal Club', *The Westmorland Gazette*, Oct. 8, 1910, p. 11.)。1911 年 7 月 17 日、ケンダル・レディーズ・ホッケークラブ総会において、男性のクラブが活動を中止した以上、女性のクラブの活動も継続できないということが決議された (WDSO 10/1)。男性クラブの活動の停滞、中止を契機として、クラブは活動を中止し、1911/12 年の新たなシーズンを待たずに消滅することになった。

以上から、1914 年以前のホッケー普及過程には、統括組織のルールを利用しつつも、その管轄外のゲーム（男女混合、リーグ戦）を実践していた非加盟クラブの活動の実例が確認された。また加盟後に、管轄外のゲーム（男女混合）がプレイされる場合もあった。管轄内/外というゲームの境界は、加盟、非加盟にかかわらず、越境可能であった。よって、ホッケーの普及過程は統括組織の普及戦略が貫徹された過程というよりも、非加盟クラブ独自のゲーム活動をも織り込んだ、重層的な過程であったと評価すべきであることが示された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計 2 件)

- ① 秋元忍、ケンダル・レディーズ・ホッケークラブの活動について 1898-1911 年—統括組織非加盟期と加盟期の活動の変容を中心に—、日本体育学会第 59 回大会、2008 年 9 月 10 日、早稲田大学
- ② 秋元忍、1914 年以前のイングランドにおける統括組織非加盟ホッケークラブの活動について—レディーズ・ホッケー・リーグ Ladies' Hockey League の検討から—、日本体育学会第 58 回大会、2007 年 9 月 6 日、神戸大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

秋元 忍 (AKIMOTO SHINOBU)
神戸大学・大学院人間発達環境学研究所・准教授
研究者番号：50346847

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者